



へきあんしょう  
 [特別出品] 僻案抄

藤原定家著。『古今集』『後撰集』『拾遺集』、いわゆる「三代集」について、父俊成からの口伝を中心に、注釈や本文の検討・考証などを纏めたもので、内容は多岐にわたる。嘉禄2年(1226)頃の成立。奥書によれば、「往年治承之比」(1177-81)に受けた口伝を、和歌の宗匠家としての自覚の下に、子孫のために書き残したもの。掲出書は定家の息為家(1198-1275)の筆と伝え、鎌倉中期頃の書写。本書の鎌倉時代の写本は、他には伝二条為道本が一本存するのみである。本年、重要文化財に指定。